

令和1年11月11日
(2019年)

保護者の皆さまへ

吹田市立片山小学校
校長 植田 京子

令和1年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和1年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

【調査内容】

小学校新学習指導要領は、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱に基づいて再整理されており、これらの資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。今年度以降の調査問題は、「知識に関する問題」と「活用に関する問題」を一体的に構成したものになっています。

1 教科に関する調査の分析

● 国語の概要

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての平均正答率はどれも全国値と比較してもやや上回っている。
- ・無回答率についても、昨年度と同様に全国値に比べて非常に低く、学習に向かう前向きな姿勢が見られる。
- ・学力の分布に関しては、全国値と比較しても正答数の高い子どもの層が多く、右肩上がりになっている。

● 国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

[出題の趣旨]話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる
◇話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をしたり、目的に応じて質問を工夫することはできている。

◆話し手の意図を捉えながら聞き、その思いや考えに着目して、報告文にふさわしい表現で書くことに課題がある。

書くこと

[出題の趣旨]目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。
◇情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方を工夫することはできている。

◆文章全体の構成や内容の中心を明確にして求められたことについて文章をコ

ンパクトにまとめる表現力に課題がある。

読むこと

[出題の趣旨] 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む。

◇ 目的に応じて、文章全体を概観して、効果的に読むことはできる。

◆ 実用的な文章（意見文・報告文など）や「複数の資料」（文章・グラフ・図表など）を的確に読み取り、論理の展開をもとに推測する力、具体的な文を抽象的な文に、また抽象的な文を具体的な文に書き換える力に課題がある。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

[出題の趣旨] 漢字を文の中で正しく書く。

文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容をわけて書く。

◇ 全国平均を上回っており良好な結果である。特に、漢字の読み書きは概ね正答しており、基礎基本の力は身につけていると考えられる。

● 国語科における今後の改善点について

- ・ 複数の情報を結びつけ、根拠を明らかにしながら自分の考えを伝えることや、目的や条件を明確に意識し、必要な情報を見つけ出すことに課題がある。低学年のうちから、目的を意識しながら情報を集め、複数の根拠を挙げながら考えをまとめる活動に取り組んでいく必要がある。
- ・ 学校図書館や、近くの図書館の利用の推進や 様々なジャンルの本に出合う機会を多くとり、本を読むことが楽しい、好きになる取組を計画的に進めていく。
- ・ 高学年になると、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加するため、文や文章を書く際には、漢字の持つ意味を考えながら使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣をつける必要がある。

● 算数の概要

- ・ 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域についての正答率全国値と比較しても上回っている。
- ・ 無回答率は、非常に低く、学習に向かう積極的な姿勢が見られる。
- ・ 学力の分布に関しては、全国値と比較しても正答数の高い子どもの層が多く、右肩上がりになっている。

● 算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

◇ 示された場合において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することはできている。

◆ 示された式の意味を理解したり、示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題がある。

量と測定

◇ 場面の状況から単位量当たりの大きさを基に、求め方と答え方を記述しその結果から判断することはできている。

◆ 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題がある。

図形

◆ 正答率は全国を上回っているものの、与えられた情報から活用する問題については、課題が残る。

数量関係

- ◆示された除法の計算の意味や、加法と乗法の混合した整数と小数の計算の意味を理解し問題を解くことに課題がある。
- 算数科における成果と今後の改善点について

- ・問題文を読み、何が正答の条件になるのかを読み取り、記述することが求められている。式や言葉を提示し、考え方を記述する活動を日頃から取り入れることが大切である。
- ・単に計算の仕方を覚えて習熟に力を入れるだけでなく、図や数式、言葉などの条件をもとにして求め方を順序だてて考え、文に表現する機会を増やす。
- ・日常生活における事象を、数学的に考え、説明する活動を増やすことで、学んだことを活用できる思考が身につくと考えている。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【基本的な生活習慣・家庭学習・家庭環境について】

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、肯定的な回答である。
- 朝食や就寝に関する設問に対しては、全国値よりも数値が高く、基本的な生活習慣については身につけている。
- 家の人と学校での出来事について話をする、将来のことについて話をするといった項目において全国値より高い数値が見られ、本校が高い家庭教育力に支えられていることがわかる。
- 家で学校の授業の復習や予習をする児童が少なく、授業時間以外に読書をする児童も少ない。
- 携帯電話やスマートフォンの使い方について家の人との約束を守っている児童が多い。
- 新聞を読んでいると答えた児童が全国値よりは高いが、全国的に数値が低く課題があると思われる。また、この質問に対して肯定的に回答している児童は、各教科の正答率が高い傾向にある。

【自分自身に関すること】

- 自分には、よいところがあると思いますかという設問に対して、当てはまる児童が全国値を上回っている。
- 人の役に立つ人間になりたいと思うと考えている児童が多い。
- 地域や社会のことに関心が低く、地域行事の参加や地域や社会をよくするために考えた経験が、全国値よりやや低い。

【授業や学習について】

- 5年生までに受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んだと思うと答えた児童が全国値をやや上回っている。
- 学級会などの話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけて話し合ったり、意見をまとめたりということに関しては苦手なようである。

●改善方策

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」との認識が一層高まるよう、道徳等の授業だけでなく、学校生活全般において継続的で一貫した「成長を促す指導」が必要である。
- ・子どもへの接し方としては「よいところをほめるなどして自信を持たせるようにする」「本や新聞を読むようにすすめる」「本の読み聞かせをする」「計画的に勉強するように促す」ことが考えられる。
- ・まわりの大人が子どもの規則的な生活習慣を整え、文字に親しむように促し、知的好奇心を高めるような働きかけを行うことが必要である。

3 今後の取り組み

《学校では》

学校目標に基づいた研究を継続し、教職員が一層子どもたちに主体的・対話的で深い学びを持って学習活動ができるよう授業改善に取り組んでまいります。

☆本校学校目標	「自ら学び、命と人権を大切にする、 すこやかで心豊かな子どもを育成する」
☆努力目標	「言語活動を意識した授業づくり」 ～国語科の授業を通して読む力を育てる～

教科に関する調査結果をふまえ、本校では、本年度より国語科において「言語活動を意識した授業づくり～国語科の授業を通して読む力を育てる～」を研究主題に、授業の工夫を全校の学力向上策として取り組んでいます。

朝の学習タイムの充実、読書支援者やボランティアさんの読み伝えを通じて、朝の時間に、国語や算数を中心とした基礎的な学力の定着を図ったり、心豊かな読書の時間をとり読書に親しむ時間を増やしていきます。

- ① 規範意識を高めること、自己肯定感を高めるために、人権教育を充実させ、特別活動や道徳の授業についても全校的な取り組みを行っていきます。
- ② 自ら学びたいとなるような意識付けや働きかけを工夫し、それぞれの教科、領域に関わる社会の動きや時事問題を話題にし、興味関心を持たせ、自分から学習する方法を身につけていけるように指導し、自学自習の定着を図っていきます。
- ③ 読書習慣定着のために、本をすぐに手に取れるよう教室においたり、学習内容に関連した本を紹介するなど読書環境の整備を行います。
- ④ ICT機器を活用した授業の研究と実践に取り組んでいきます。

《家庭では》

- ① 規則正しい生活習慣・学習習慣はとても大切です。学校で力が十分発揮できるよう引き続き生活面でのサポートをお願いします。
- ② 読書習慣の定着については、読んだ本の楽しさ、面白さについて話す機会を持ったり、家族で読書をしたりする等、本を身近に感じられる環境を整えてほしいと思います。
- ③ お手伝いなどの体験をたくさんすることで、生活体験が豊かになります。その体験が地域や社会への第一歩につながります。ご家族で相談し取り組んでいただければと思います。
- ④ 社会の動きに関心を持てるよう、テレビのニュースを一緒に見たり、時事問題を話題にしたり、ボランティアに参加するなど社会参画の意識を高めるようお願いいたします。
- ⑤ 本校区は地域行事が盛んです。地域行事は「地域の多様な人との出会い」「体験活動」などの経験ができる場であり、地域の大人に見守られながら育っていきます。多くの子どもやご家族が地域行事に参加してほしいと思います。

次期学習指導要領では「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」を三つの柱として、「生きる力」の育成を目指す資質・能力が明確化されました。片山小学校では、自分で考え、表現し、行動する取組を通じて、授業の中だけでなく、様々な活動の中で、子ども一人ひとりが、認め合い支え合う中で力を高めていくような取組を進めていきます。

今後とも本校の教育推進にご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。